

〈テーマ〉 解決したい！かけ算に対する概念とのズレを課題に取り上げた取組

【実践の概要】

本時の問題

「1 Lの重さが400 gの土があります。この土1.3 L, 0.6 Lの重さは、それぞれ何gですか。」

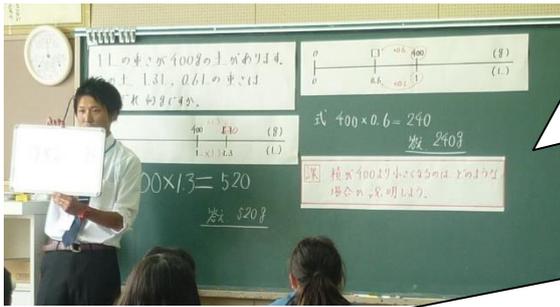
- $400 \times 0.6 = 240$ を解いた後の児童の疑問
⇒ かけ算なのに、積が400よりも小さくなった。かけ算の積は、かけられる数よりも大きくなるんじゃないのかな…

本時の課題 (かけ算の積に対する児童の概念とのズレをもとにしたもの)

「積が400よりも小さくなるのは、どのような場面か説明しよう。」

学力差のある学級での自力解決の取組み

- 努力を要する児童：数直線を活用して、 $400 \times \square$ の中に様々な小数を代入して、積が被乗数よりも小さくなる場合を調べた。
- 理解の速い児童：数直線上の1（基準量）に着目して、積が被乗数よりも小さくなる場合の説明を考えた。



- 課題をつかむまでの対話①
【乗法に対する児童の認識の確認】
T これまでのかけ算では、積はかけられる数よりも必ず大きくなってたね。(既習の2の段の一覧を提示)
C うん。必ず大きくなった。
C かけ算って積は必ず大きくなるんじゃないの？

- 課題をつかむまでの対話②
【本時の式と計算が間違いでないことの確認】
T でも、今日の問題では、積がかけられる数よりも小さくなったね。式と計算が間違っているのかな。
C みんなで確認したから間違いはないよ。
C かける数が小数だからじゃない？

- 課題をつかむまでの対話③
【本時の課題の焦点化】
T でも、昨日までもかける数が小数の場合を計算してきたけれど、積はかけられる数よりも大きくなったよ。(本単元で取り組んだ式と答えを提示)
C 本当だ。
C なんで答えが小さくなったんだろう。



- 課題をつかむ
積が400よりも小さくなるのは、どのような場面か説明しよう。

- 自力解決
C 努力を要する児童：0.2をかけたら、80になった。
C 理解の速い児童：1よりも小さい数をかけたとき、積はかけられる数よりも小さくなるんじゃないかな！

教師との対話から、「かけ算の答えは大きくなる」という、児童の概念とのズレを感じさせたことで、課題を明確に捉えさせるとともに、「解決したい」をいう意欲を引き出すことができた。